



学内広報

No.1300

2004.11.10
東京大学広報委員会



学生表彰「東京大学総長賞」授与式を挙（2ページに関連記事）

CONTENTS

一般ニュース 2
 学生表彰「東京大学総長賞」授与式を挙、平成17年度入学者募集要項配付

部局ニュース 3
 平成17年度大学院法学政治学研究科修士課程入学試験について、小石川植物園後援会25周年記念式典を開催、理学系研究科・理学部教職員と留学生・外国人研究員との懇談会、総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センター主催「彼理（べるり）とPerry（ペリー）」展が盛会のうちに終了、薬学系研究科に「医薬品情報学」寄付講座開設 4 寄付講座体制へ、柏キャンパス一般公開開催、第11回医科学研究所留学生・外国人研究生等

と教員との懇談会開催される、医科学研究所で慰霊祭行われる

掲示板 8
 工学部航空学科再開50周年記念行事開催のお知らせ、第27回農学部公開セミナー「海の生き物を探る」を開催、「教養学部報」第477（10月13日）号の発行、教養学部で第102回オルガン演奏会の開催《バッハ鍵盤音楽の楽しみ》、「シベリアの旧石器時代」講演会のお知らせ、第10回人工物工学コキウム共創の多様な軸一開催のお知らせ

事務連絡 11
 人事異動（教員）

淡青評論「大学で何を教えるのか」..... 12

学生部

学生表彰「東京大学総長賞」授与式を挙

平成16年度第1回学生表彰「東京大学総長賞」の授与式が下記の日程にて開催された。

学生表彰「東京大学総長賞」は、本学学生を対象として、学業、課外活動、各種社会活動、大学間の国際交流等の各分野において、「他の学生の範となった」「優れた評価を受けた」「優秀な成績を修めた」などの顕著な功績があった個人又は団体に総長が表彰を行うものであり、平成14年度から設けられている。

今年度第1回の「東京大学総長賞」には、個人10件、団体7件の合計17件の推薦があり、学生表彰選考委員会の慎重な審議の結果、下記のとおり、個人1件、団体4件の計5件が選考された。式では、選考結果の報告、総長の挨拶のほか、各受賞者から今回の受賞に関するプレゼンテーションが行われ、成果の報告があった。

今回の授与式は、初めて駒場で開催したが、多くの学部1、2年生が参観することができ、内容の濃いプレゼンテーションは次回以降の総長賞に向けての勉学や課外活動への意欲を高める刺激になったと思われる。また、授与式後の懇談会では淡青旗がホールにはためくなか、運動会応援部のリードによる「運動会歌」および「ただ一つ」が高らかに斉唱されるなど和やかに進められ、盛況のうちに終了した。

授与式：10月19日（火）17:00～18:30

場 所：大学院数理科学研究科大講義室（駒場キャンパス）

授与式前に音楽部管弦楽団による弦楽四重奏を行った。

受賞者：

個人の一部

- ・市来浄與（理学系研究科博士課程3年）
理論天文学に対する貢献

団体の部

- ・アジア農村研究会
11年にわたるアジア諸国の農村調査実習活動とアジア諸国学生との国際交流
- ・五月祭常任委員会
五月祭の企画、実行と運営
- ・Robo Tech（ロボテック）
NHK大学ロボットコンテスト2004優勝ならびにロボット技術の習得・啓蒙への自主的取組み
- ・運動会漕艇部
全日本選手権標準優勝等の優秀な成績

学生部

平成17年度入学者募集要項配付

平成17年度の本学の入学者募集要項が決定し、11月15日（月）から入学志願者に交付されている。

募集人員、試験期日、試験場、合格発表日などは次のとおりである。

募集人員

	募集人員(人)	前期日程(人)	後期日程(人)
文科一類	415	373	42
文科二類	365	327	38
文科三類	485	432	53
理科一類	1,147	1,025	122
理科二類	551	492	59
理科三類	90	80	10
計	3,053	2,729	324

出願期間

平成17年1月24日（月）～2月2日（水）まで

試験期日

前期日程 平成17年2月25日（金）・26日（土）・27日（日）
後期日程 平成17年3月13日（日）・14日（月）

試験場

前期日程

科 類	第2次学力試験試験場
文科一類 文科二類 文科三類	東京大学 教養学部
理科一類 理科二類 理科三類	東京大学 法・文・経済・教育・薬・医・理・工・農の各学部

後期日程

科 類	第2次学力試験試験場
文科一類 文科三類 理科二類 理科三類	東京大学 法学部
文科二類	東京大学 経済学部
理科一類	東京大学 工学部

合格者発表

○第1段階選抜合格者発表

・前期日程

合格者発表は、平成17年2月10日（木）13時頃、本郷地区構内に合格者の大学入試センター試験「試験場コード」及び「受験番号」を掲示する。

・後期日程

合格者発表は、平成17年3月10日（木）13時頃、本郷地区構内に合格者の大学入試センター試験「試験場コード」及び「受験番号」を掲示するとともに、電子郵便（レタックス）により合格者には「合格通知書」を、また、不合格者には「不合格通知書」を送付する。

○合格者発表

・前期日程

合格者発表は、平成17年3月10日（木）13時頃、本郷地区構内に合格者の第2次学力試験受験番号を掲示するとともに、合格者には電子郵便（レタックス）により「合格通知書」を送付する。

・後期日程

合格者発表は、平成17年3月23日（水）13時頃、本郷地区構内に合格者の第2次学力試験受験番号を掲示するとともに、合格者には電子郵便（レタックス）により「合格通知書」を送付する。

募集要項交付場所

「本郷地区」

法・医・工・文・理・経済・教育・薬学部の事務室
 学生部学生課教務係、広報センター、正門、赤門
 東大生協（安田講堂売店、書籍部）

「弥生地区」

農学部事務室及び農学部正門

「駒場地区」

教養学部アドミニストレーション棟1階
 教養学部正門、東大生協売店

※郵送での受付は学生部入試課において行う。

テレホンサービス

募集要項の請求方法（郵送）、出願状況（出願者数及び倍率）並びに追加合格の有無等について、テレホンサービス（電話番号：03-3818-9900）を行う。

大学院法学政治学研究科・法学部

平成17年度大学院法学政治学研究科修士課程入学試験について

平成17年度大学院法学政治学研究科修士課程（A選抜・C選抜）の入学試験は、9月1日（水）～9月3日（金）に筆記試験が、10月4日（月）～10月6日（水）に口述試験がそれぞれ行われ、10月22日（金）に合格者（入学許可内定者）が発表された。

なお、志願者数、受験者数及び合格者数は以下のとおりである。

選抜の種類		A	C	計
志願者数	本学出身者	29	1	30
	他大学出身者	94	34	128
	計	123	35	158
受験者数	本学出身者	25	1	26
	他大学出身者	66	33	99
	計	91	34	125
合格者数	本学出身者	8	0	8
	他大学出身者	0	9	9
	計	8	9	17

A：筆記試験（外国語1科目、専門科目2科目）、口述試験、学業成績により選抜。

B：司法試験合格者を対象とする。筆記試験（外国語1科目）、口述試験、小論文、学業成績により選抜。合格発表は12月17日（金）。

C：外国人特別選抜。筆記試験（外国語1科目、専門科目1科目）、口述試験、学業成績等により選抜。

**大学院理学系研究科・理学部
小石川植物園後援会25周年記念式典を開催**

大学院理学系研究科附属植物園（小石川植物園）では、10月18日（月）に小石川植物園後援会25周年記念式典が催されました。

小石川植物園後援会は、小石川と日光にある本学の附属植物園の社会教育や市民サービスを支援するために、昭和54年4月に設立されたもので、以来植物名ラベル、案内板、ベンチなどの寄贈、植物園案内書ほか、植物園に関連した小冊子等の発行・頒布、市民セミナーの開催等の活動を続けてきました。今年9月にはこれらの活動に対して、日本植物学会の学会賞特別賞が授与されています。発足時に87名であった会員数は年々増えて、今では760名を数えるに至っています。

式典当日は秋晴れにも恵まれ、多数の後援会会員に加え、総長、理学系研究科長をはじめとする関係者、合わせて約140名が、後援会の長年の活動を記念するために集まりました。



祝辞を述べる佐々木毅総長

と挨拶があり、続いて留学生のスピーチが行われた。生物科学専攻博士2年のセーチャン・ヴァンナラさん（タイ、女性）は、日本に来てからこれまで理学部日本語教室で日本語を勉強し、研究も順調に進んでいることなどについて日本語で話をされた。物理学専攻助手のダミアン・マーカム先生（英国、男性）は日本の食べ物がとても好きなことや、現在物理学の授業で学生に教えている経験について日本語と英語で話をされた。お二人とも日本に来てから日本語を一生懸命勉強され、とても流暢な日本語であった。スピーチの後は大学院外国人研究生で物理学専攻のアマジオ・ギリエルメさん（ブラジル、男性）が独学で学んだというアコーディオンで見事な演奏を披露し、拍手喝さいを浴びた。そして会の終わりには参加者全員でじゃんけんをして負けた人が勝った人の後ろにつく“むかでゲーム”をし、優勝者には御殿での昼食券が授与された。地球惑星科学専攻の横山国際交流委員会委員の英語による閉会の辞があり全員で記念写真の撮影の後、19時半に盛況のうちに閉会した。台風のため通常より時間的には短かったが、中味が凝縮したパーティで、参加者は温かく美味しい食事と飲み物、会話を通して互いに交流を深め、楽しいひと時を過ごすことが出来たようである。



参加者記念撮影

**大学院理学系研究科・理学部
理学系研究科・理学部教職員と留学生・外国人研究員との懇談会**

10月20日（水）18時から山上会館地階食堂「御殿」において理学系研究科・理学部の教職員と留学生・外国人研究員との懇談会が開催された。台風23号の接近であいにく雨模様の天気であったが、留学生・客員研究員とその家族、チューターの日本人学生、教職員、合わせて60名余りの参加者があった。会は岡村理学系研究科長・理学部長の日本語と英語による歓迎の挨拶に始まり、梅澤国際交流委員会委員の乾杯の音頭の後、料理や飲み物を手に歓談が始められた。

会半ばに留学生センター日本語教育の二通先生の紹介



むかでゲームを楽しむ参加者

大学院総合文化研究科・教養学部

総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センター主催「彼理（ペリ）とPerry（ペリー）－交錯する黒船像－」展が盛会のうちに終了

10月3日（日）から10月14日（木）まで大学院総合文化研究科の美術博物館で、アメリカ太平洋地域研究センターの主催で開催された「彼理（ペリ）とPerry（ペリー）－交錯する黒船像－」展は延べ1,300人を超える入場者を得て、盛会のうちに終了した。

この展示は、本年が1854年に日米和親条約が締結され、日本が開国してから、150年を迎えることを記念して企画されたものである。展示物の一部は、マサチューセッツ工科大学のジョン・タワー、宮川繁両教授が中心となって日米双方の開国関係の画像史料をデジタル技術を駆使して対照的に作成したもので、全米各地で巡回展示され、高評を博した「Blackships and Samurai」展を日本で初めて展示したものであった。この展示部分は今後、下田、長崎など開港ゆかりの地で展示される予定になっている。それに加えて、今回の展示では、本学の史料編纂所のご協力を得て、同所が所蔵されている「ペリー渡来絵図貼交屏風」の複製など貴重な画像史料を合体させる形で展示した。

つまり、今回の展示は、日本の開国に関する日米双方の画像を対比的に展示することで、日米両国が初めての遭遇に際してどのような「眼差し」を向け合ったのか、そこにどのような偏見や誤解が作用していたのか、という「文化摩擦」の起源を辿る企画ともなった。公開前日の10月2日（土）には、15時から加藤祐三（横浜市大名誉教授）、三谷博（本学教授）、富沢達三（神奈川大学研究員）の3氏が報告され、遠藤泰生教授の司会によるシンポジウムも開催され、開国期の歴史的意義が多面的に検討された。その成果は、当センターの年報『アメリカ太平洋研究』の次号に掲載される予定である。

また、夕刻からは展示開催を記念するレセプションが開催され、能登路雅子教授の司会のもと、油井大三郎アメリカ太平洋地域研究センター長の開会の辞に続いて、古田元夫副学長や浅島誠総合文化研究科長の挨拶があった。続いて、近藤誠一（外務省文化交流部長）、デヴィッドソン（在日アメリカ大使館文化担当官）、中原伸之（アメリカ研究振興会理事長）、久野明子（日米協会専務理事）、松井大英（下田了仙寺住職）、加藤友康（史料編纂所副所長）、義江彰夫（美術博物館委員会委員長）の諸氏からのご挨拶があった。なお、急な公務のため欠席された文部科学省の井上正幸国際統括官からはメッセージが寄せられた。これらのレセプションの様子は当センター発行の次号のCPASニューズレターに掲載される予定である。



展示風景

大学院薬学系研究科・薬学部

薬学系研究科に「医薬品情報学」寄付講座開設 4 寄付講座体制へ

大学院薬学系研究科（海老塚豊研究科長）は、10月1日（金）、育薬・医薬品適正使用の研究教育を目指す寄付講座「医薬品情報学（Drug Informatics）講座」を開設し、現行の3 寄付講座体制に加え、新たな領域への研究・教育の充実を図った。寄付講座は、科研製薬、杏林製薬、塩野義製薬、第一製薬、大鵬薬品、三菱ウェルファーマ、湧永製薬、東邦薬品、オーパス、総合メディカル、福岡市薬剤師会の賛同と支援を得たもので、教授には、九州大学薬学研究院教授だった澤田康文氏が就任した。

寄付講座では、医薬品情報学の研究推進、医薬品ライフタイムマネジメント（DLM）を実施できる人材育成を目指し、医薬品のプロダクトライフサイクルの延長、医薬品開発（創薬とDLM）サイクルの効率化などが期待される。

この寄付講座の特色は、医療現場における医薬品適正使用・育薬研究と製薬現場における医薬品のライフサイクルマネジメント研究という二つの分野を融合させ、医薬品のDLMを遂行するための「医薬品情報学」確立を目的とする。また、DLMで指導的役割を果たすべき人材をプリセプターとして輩出するための体系的教育システムの構築も目指す。

研究の目標・計画は、医薬品情報に関して、①適正な収集、②薬物動態・動力学に基づく評価・解析、③種々の危険因子（遺伝子多型、薬物相互作用、肝・腎疾患など）による薬物動態・作用変化の定量的予測、④最適な規格化/標準化/電子化、⑤医療現場への適切な提供などを取り扱う医薬品情報学の体系を確立する。

また、教育の目標・計画は、製薬企業におけるプロダクトライフサイクルマネジメント分野、医療機関等で医薬品適正使用・育薬分野に従事する中堅的研究者・技術者あるいは薬剤師を対象に、DLMを指導的立場から推進できる人材を養成するものである。

**新領域創成科学研究科／宇宙線研究所／物性研究所／環境安全研究センター
柏キャンパス一般公開開催**

10月29日（金）、30日（土）の両日にわたり柏キャンパス（新領域創成科学研究科基盤科学研究系・生命科学研究所系、宇宙線研究所、物性研究所、環境安全研究センター、柏図書館）において、一般公開が開催された。

この一般公開は、地域・社会との連携・交流や知的啓発を目指して、柏キャンパスへ移転した当初から実施されてきたもので5年目になる。

公開内容は、キャンパスとして特別講演会を柏図書館で開催したのをはじめ、各部局とも日頃の研究成果の紹介、実験コーナー、特別企画及び講演等それぞれ特色ある催しが行われた。特に、物性研究所及び新領域創成科学研究科基盤棟で行われた「ガイドツアー」（スタッフによる見どころ案内）は、毎回、多数の参加者で好評であった。

両日も、家族連れが目立ったが、特に1日目に学校行事として貸切バスで訪れた高校生（約40名）や第1学年全員が授業の一環として訪れた中学生（約150名）等、千葉県内のみならず近県からも中・高校生が多数訪れ、熱心にメモを取るなど課外授業のような雰囲気であった。

今年は2日目が雨天で肌寒い日ではあったが、2日間を通して約3,500名の方が訪れ、地域に開かれたキャンパスの雰囲気が感じられた。

来場者は、キャンパスの広さ、建物の斬新さや先端研究についての丁寧な説明や展示、実験体験等に感心を持って帰られた。



実験に見入る来場者



重力体験（Xブランコ）に参加する来場者



ガイドツアーに参加する来場者

医科学研究所

第11回医科学研究所留学生・外国人研究生等と教員との懇談会開催される

今年で11回目の開催となる医科学研究所主催「留学生・外国人研究生等と教員との懇談会」が、10月8日（金）18時から開催された。

現在、本研究所には、10ヶ国からの留学生・外国人研究生等が在籍しており、そのうちの7ヶ国32名と所長以下関係教職員18名の計50名が出席した。

懇談会は、井上純一郎教授（国際交流委員長）の開会の辞、山本雅所長の挨拶並びに乾杯の発声により歓談に入った。

心身がリフレッシュできると留学生等に好評であることから、今年もキャンパス近辺のお店で美味しいイタリア料理を賞味しながら留学生同士の相互交流及び日本人教員との親睦と理解を深める交流に十分な時間を費や

し、例年にも増して有意義な歓談が始終和やかな雰囲気の中で進められた。

20時過ぎ、楽しい余韻を残すなか、参加者全員による記念写真を撮影後、伊藤耕一助教授（国際交流委員）の閉会の辞により散会した。



山本所長の挨拶



参加者全員による記念撮影

医科学研究所

医科学研究所で慰霊祭行われる

医科学研究所では、同附属病院で亡くなられ、病理解剖させていただいた方々の御霊をお慰めするために、10月14日（木）13時30分から医科学研究所慰霊祭を挙行了た。

式は、参列者全員による黙祷に始まり、献体者御尊名の奉読の後、山本所長が「御霊に捧げることば」を述べた。続いて、御遺族及び医科学研究所教職員が献花を行い、最後に岩本病院長から御遺族に対して感謝のことばがあり、14時過ぎに滞りなく終了した。



「御霊に捧げることば」を述べる山本所長



御遺族に挨拶する岩本病院長

大学院工学系研究科・工学部 工学部航空学科再開50周年記念行事開催の お知らせ

お知らせ

戦後7年間の空白を経て復活した航空活動を背景として、昭和29年に再開された当専攻の50年間の歩みを振り返り、未来50年に向けた現在の研究教育活動を公開するほか、卒業生来賓を招いた記念講演会を開催します。多数のご参加をお待ちしております。

50周年記念行事 期間企画

11月26日（金）

- 10:00～12:30 オープンラボ
本郷キャンパス工学部7号館（申込不要）
- 13:00～16:30 記念式典・講演会
安田講堂（要申込*）
- 17:30～20:00 記念懇親パーティー
山上会館（有料、要申込*）

11月27日（土）

- 10:00～16:00 一般公開
本郷キャンパス工学部7号館（申込不要）

11月28日（日）学生室内飛行ロボット 飛行会

12月9日（木）～11日（土）

- 国際シンポジウム（21COE機械システム・イノベーション）“Innovative Aerial/Space Flyer Systems”
武田先端知ホール

*申込方法

11月19日（金）までに氏名、所属、連絡先、卒業年次（OBのみ）、記念式典・講演会、記念懇親パーティーへの出欠を航空学科・宗像（FAX：03-5841-8561またはE-mail：tmunak@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp）宛にご連絡下さい。

記念式典・講演会については本学の学生は申込不要、安田講堂受付で学生証を提示すれば入場できます。

詳細は、<http://www.aerospace.t.u-tokyo.ac.jp>をご覧ください。

大学院農学生命科学研究科・農学部 第27回農学部公開セミナー「海の生き物を 探る」を開催

お知らせ

大学院農学生命科学研究科・農学部では、以下の要領でセミナーを開催します。無料で、どなたでも参加できます。多くの方のご来場をお待ちしております。

第27回東京大学農学部公開セミナー 「海の生き物を探る」

司会：水圏生物科学専攻 教授 松永茂樹

「マイワシはどこに消えたのかー海の魚類生産の移り変わり」

水圏生物科学専攻 教授 青木一郎

「造礁サンゴの大量死滅が魚類群集に与える影響：危機にあるサンゴ礁生態系」

農学国際専攻 助教授 佐野光彦

「魚類増養殖の発展を脅かす流行病」

水圏生物科学専攻 教授 小川和夫

「動物はなぜ『旅』をするのか?」

海洋研究所 教授 塚本勝巳

日 時 11月27日（土）13時30分～
場 所 弥生講堂一条ホール
東京都文京区弥生1-1-1
地下鉄南北線「東大前」下車 徒歩1分
地下鉄千代田線「根津」下車 徒歩7分
対 象 一般（どなたでも参加できます）
定 員 300名（当日先着順）
参 加 費 無料
問 合 せ 先 東京大学農学系総務課 広報情報処理係
〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1
電話 03-5841-5484、8179
Mail koho@ofc.a.u-tokyo.ac.jp

主 催 大学院農学生命科学研究科・農学部
共 催 （財）農学会

大学院総合文化研究科・教養学部
「教養学部報」第477（10月13日）号の発行
—教員による、学生のための学内新聞—

お知らせ

義江 彰夫・松本 忠夫：
「第一高等学校創立130周年記念・駒場の歴史展」によせて
油井大三郎：彼理（ペリ）とPerry（ペリー）
—交錯する黒船像一展によせて
杉橋 陽一：ちょっと尾籠な話
木村 理子：モンゴル語講座開講

〈本の棚〉

野崎 敏：林文代著『迷宮としてのテキスト フォークナー的エクリチュールへの誘い』
内山 融：山脇直司著『公共哲学とは何か』
「公」と「私」の関係はどうあるべきか？
品田 悦一：松浦寿輝著『あやめ 鱈 ひかがみ』『半島』かぐわしき寄生花卉
鍛治 哲郎：ロバート・キャンベル編『読むことの力 東大駒場連続講義』
川合 慧：玉井哲雄著『ソフトウェア工学の基礎』

〈時に沿って〉

高木 寛通：駒場から駒場へ

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

大学院総合文化研究科・教養学部
教養学部で第102回オルガン演奏会の開催
《バッハ鍵盤音楽の楽しみ》

お知らせ

教養学部では、恒例のオルガン演奏会を次のとおり開催いたします。このたびは、国内外でご活躍なさっている松居直美さんをお迎えし、バッハのオルガン曲の数々をお楽しみいただきます。どうぞご期待下さい。

入場は無料です。ホームページを開設しておりますので、ぜひご覧下さい。(http://organ.c.u-tokyo.ac.jp)

日 時 11月25日（木）18時30分開演（18時開場）
場 所 教養学部900番教室（講堂）

曲 目 J・S・バッハ
前奏曲とフーガ イ長調（BWV537）
コラール・パルティータ「おお神よ、汝いつくしみ深き神よ」（BWV767）
幻想曲とフーガ ハ短調（BWV536）
コラール編曲「いざ来たれ、異邦人の救い主よ」（BWV659）
前奏曲とフーガ イ短調（BWV543）
オルガン 松居直美

入場無料（先着500名）

主 催 東京大学大学院総合文化研究科
教養学部オルガン委員会

総合研究博物館
「シベリアの旧石器時代」講演会のお知らせ

シンポジウム・講演会

放射性炭素年代測定装置委員会（総合研究博物館年代測定室）は、文学部考古学研究室と共催で、講演会を開催します。

来日中のロシア・イルクーツク国立大学歴史学部考古学民族誌学講座メドヴェージェフ教授、同リプニーナ研究員による講演を行います。お二人は、日本列島に住んだ人たちのつながりが指摘されているマリタ遺跡をはじめ、旧石器時代遺跡を精力的に発掘・調査されています。教授は、NHK「日本人はるかな旅」にも出演されました。また、現在、イルクーツク市近郊にある旧石器遺跡で行っている日露共同調査（北海道大学・東京大学・イルクーツク国立大学などの研究者が参加）のロシア側責任者です。

日 時 11月27日（土）15時～18時
（講演後、簡単な懇親会を予定しています）

場 所 総合研究博物館講義室（1階）

講演者・プログラム

G. I. MEDVEDEV教授

「地質考古学の概念と方法論的諸問題」

E. A. LIPNINA研究員

「旧石器時代遺跡マリタ：現状と近年の研究」

（講演はロシア語で行われますが、通訳をします）

問い合わせ先

吉田邦夫（総合研究博物館） 03-5841-2822

総合研究博物館年代測定室 03-5841-8450

人工物工学研究センター 第10回人工物工学コロキウムー共創の多様な軸ー開催のお知らせ

お知らせ

開催日 12月10日(金) 13:00~18:00
 会場 駒場リサーチキャンパス
 先端科学技術研究センター13号館 3階講堂
 主催 人工物工学研究センター
 参加費 無料

共創工学は、単独の行動主体のみでは得られない有効解を、行動主体間の相互作用の結果、システム全体として創出する方法論を探求する新しい工学です。行動主体間の相互作用には、人工物と人工物、人と人工物、人と人、組織と組織といった多様な組み合わせがあります。このような共創的意思決定問題の追究により、従来困難であった不完全情報下での人工システムの開発や、人・人工物・環境の発展的な関係の創出を目指しています。

今回のコロキウムでは、そのような共創を実現するための理論的根拠として、生命システムや人間の経済活動に含まれる多様な共創のメカニズムと、実社会での展開について、様々な分野の講演者の方々にご紹介いただきます。皆様のご参加をお待ちしております。

<プログラム>

12:30 受付開始

13:00~13:10

「挨拶ーコロキウム開催にあたってー」
 新井民夫(人工物工学研究センター長)

13:10~13:35

「共創による意思決定」
 上田完次(人工物工学研究センター教授)

13:35~14:20

「創発と設計論」 北村新三(神戸大学副学長)
 司会: 浅間 一(人工物工学研究センター教授)
 高橋浩之(人工物工学研究センター助教授)

14:20~14:30 休憩

14:30~15:15

「心と身体の共創: 運動生命科学のアプローチ」
 跡見順子(総合文化研究科教授)

15:15~16:00

「第2種基礎研究が持つ二つの使命」
 内藤耕((独)産業技術総合研究所研究経営調査室長)

司会: 白山 晋(人工物工学研究センター助教授)
 下村芳樹(人工物工学研究センター助教授)

16:00~16:10 休憩

16:10~16:55

「不完全情報下の意思決定: 経済心理学のアプローチ」
 長瀬勝彦(東京都立大学経済学部教授)

16:55~17:40

「社会共創による知の生成: 特許データのネットワーク分析」
 馬場靖憲(先端科学技術研究センター教授)

司会: 藤田豊久(人工物工学研究センター教授)
 奥田洋司(人工物工学研究センター助教授)

17:40~17:55

総括ディスカッション
 黒田あゆみ(人工物工学研究センター客員助教授)

17:55~18:00 閉会の挨拶

◎参加申し込み・問い合わせ先

人工物工学研究センター内
 第10回人工物工学コロキウム事務局
 担当: 上田研究室 庄司、羽生
 〒153-8904 東京都目黒区駒場4-6-1
 TEL 03-5453-5887
 FAX 03-3467-0648
 MAIL kyoso@race.u-tokyo.ac.jp
 HP <http://www.race.u-tokyo.ac.jp/>

参加希望の方は、お名前、所属、連絡先を明記の上、コロキウム事務局宛お申し込み下さい。



人事異動（教員）

発令年月日	氏名	異動内容	旧（現）職等
（昇 任）			
H16.10.16	村上 新	大学院医学系研究科助教授	医学部講師
//	中嶋隆人	大学院工学系研究科助教授	大学院工学系研究科講師
//	塩澤 昌	大学院農学生命科学研究科教授	大学院農学生命科学研究科助教授
//	小國健二	地震研究所助教授	地震研究所助手
H16.11.1	菅 敏幸	大学院薬学系研究科助教授	大学院薬学系研究科助手
//	小倉 賢	生産技術研究所助教授	大学院工学系研究科助手
//	竹内康雄	宇宙線研究所附属神岡宇宙素粒子研究施設助教授	宇宙線研究所附属神岡宇宙素粒子研究施設助手
//	小島克己	アジア生物資源環境研究センター教授	アジア生物資源環境研究センター助教授
（配 置 換）			
H16.11.1	SEKIMORI GAYNOR MEREDITH	東洋文化研究所国際学術交流室助教授	東洋文化研究所助教授
//	安岡善文	生産技術研究所教授	生産技術研究所附属都市基盤安全工学国際研究センター都市基盤情報ダイナミクス分野教授

大学で何を教えるのか

情報倫理の国際シンポジウムで講演をすることになった。はて何を話そうか……。情報倫理というと、有害コンテンツの規制だの、プライバシーや著作権の保護だのといったテーマが思い浮かぶ。だがシンポジウムの目的は、むしろ「情報社会の倫理とは何か」を正面から深くとらえ直すことだという。なるほど、これは大問題だ。

今の子供たちはサイバー空間のゲームで人を殺し慣れている、それで「人を殺して何が悪いの」といったセリフを吐くのだ、などといった凄まじい意見を時々耳にする。論理的飛躍がありすぎる気もするが、情報社会の倫理に関して真剣に取り組まなくてはならない問題は山のようにある。その教育はわれわれの仕事でもあるだろう。

考えてみると、東京大学で学生は何を学ぶのだろうか。彼らは専門知識以外に、達成すべき社会的理想や、人間としての生き方といったものを学んで卒業していくのだろうか。



少なくとも太平洋戦争後しばらくの間は、明確な教育理念があったに違いない。敗戦の苦い経験を踏まえて、平和で民主的な社会を支える優れた人材を育てることが、暗黙の共通理解だったはずだ。だが六十年近くの年月が過ぎた今、そんな理念はどこかに雲散霧消してしまったように見える。

確かに日本社会は平和で豊かである。だがその一方で、競争原理や自己責任の名のもとに、私的利益の追求のみが大っぴらに称揚されている。特に法人化後、われわれの第一関心事はオカネになってしまったようだ。

これをアメリカン・グローバリズムのせいにする人がある。だがそれは半面の真理でしかない。アメリカの多くの大学では、学部教育においてリベラルアーツ（教養科目）が重視され、専門知識習得より、まず「よき市民を育てる」という目標が掲げられている。

大学には、私企業とは違った社会的役割があるはずではないだろうか。

西垣 通（大学院情報学環）

（淡青評論は、学内の職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1300 2004年11月10日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務部広報課 ☎ 03-3811-3393
e-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
ホームページ http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO